

## リヨンセンター UDL/STARMAJ インターンシップ 体験記

氏名	岩田 大輝
所属	工学研究科機機械機能創成専攻 / 流体科学研究所 内一研究室
指導教員	内一 哲哉 教授
研究課題	電磁超音波共鳴法を用いた配管減肉の評価精度の検討
派遣期間	2019.9.10～2019.11.3
派遣機関	INSA-Lyon
受入教員	Prof. Philippe GUY

2019年9月10日から11月3日までの期間で、フランスのリヨンにあるINSA-LyonのLaboratoire Vibrations Acoustique(LVA)に滞在し、国際インターンシップに参加しました。

私のインターンシップの派遣先は、INSA-Lyon内にあるLaboratoire Vibrations Acoustique(LVA)と呼ばれる振動(超音波)を専門にしている部署でした。フランスの大学では、研究室に配属されるのは PhD からなので、私がメンバーの中では最年少でした。今回の滞在では、電磁超音波共鳴法の信号の形状と表面粗さとの関係に関する研究を行いました。この研究は、長期使用により減肉した発電所のパイプの状態を破壊することなく推定することを目標としています。派遣先の研究室は、自分と同じく電磁超音波を専門としている研究室でした。そのため、研究室のメンバーや先生とのディスカッションを通じて、さらに深い知見と、新しい視点を身に着けることが出来ました。

リヨンはフランス第二の都市であると同時に学生都市でもあるためか、非常に治安が良く、普段の生活から楽しむことが出来ました。さらに、東北大学から同時期に多くのメンバーが参加したため、一緒にご飯に行ったりするなど、横のつながりを深めることもできました。今回は私にとって初めての海外滞在だったために、文化の違いや言語の違いなど、はじめは戸惑うことが多かったです。しかしながら、研究室のメンバーをはじめ多くの人に支えられ、充実した8週間を過ごすことが出来ました。

平日の夜は、レストランに食事に行ったり、ミュージックバーで音楽を楽しんだりしました。私は、リヨンの別の大学に通っている先輩がいたため、その人にいろいろなレストランやイベントに連れて行ってもらいました。休日は、リヨン近郊の都市をはじめ、多くの場所に訪れ、フランスの各都市の違いや雰囲気を感じることが出来ました。初めての欧州の街並みや文化は、テレビで見るとは全く異なり、自分にとって非常に新鮮で刺激的でした。

このような貴重な機会を与えてくださった指導教員である内一哲哉教授をはじめ、派遣機関受入教員である Philippe GUY 教授、GCORE 事務局の方々など、本インターンシッププログラムの方々に深く感謝いたします。



所属した研究室



平日夜のミュージックバーにて



研究室でのラクレットパーティー



ボルドーのワインシャトーにて